

農大だより

発行日：令和2年11月1日
 発行：岐阜県農業大学校
 可児市坂戸938
 Tel：0574-62-1226
 Fax：0574-62-1227

◇目次◇

- スマート農業関連の整備を実施しました
 - ・トマト栽培を高度化（3S栽培システム、環境制御温室・独立ポット耕システム）
 - ・ほ場管理の効率化（自動操舵トラクタ、ラジコン草刈り機）
- プロジェクト学習は順調に進んでいます
 - ・学習計画検討会（1学年生）
 - ・学習中間検討会（2学年生）
- 『オープンキャンパス』『緑の学園』を開催しました
- 農大育ちの飛騨牛を販売しました
- 農大の新型コロナウイルス感染症対策について

スマート農業関連の整備を実施しました

トマト栽培を高度化



【3S栽培システム】

中山間農業研究所が開発した3Sシステム（ナス科果菜類隔離型少量培地耕システム）を、農大では今年から夏秋トマト栽培に導入しました。

施工は学生達が、整地から配管、給廃液の制御装置、栽培ベンチ、全てを手作りで行いました。ベンチの骨組みの水平や直角を出したり、配管の水漏れ対策等、悪戦苦闘しながらも、なんとかシステムを組み立てることができました。

コロナ禍の影響で作期は遅れてしまいましたが、7月20日に定植を行い、11月13日の収穫終了まで、栽培をすることができました。



<施工の様子>



<トマト定植後の管理>



<環境制御温室>

【環境制御温室・独立ポット耕システム】

環境制御温室を整備し、9月下旬からトマト独立ポット耕栽培を開始しました。冬春トマト栽培に取り組んでいる学生は、生育に応じた液肥管理や温室内環境の最適化などを学んでいます。収穫は12月から始まり、栽培が終了する6月下旬まで、収量や品質調査をプロジェクト研究の中で行っていく予定です。

ほ場管理の効率化

【自動操舵トラクタ・ラジコン草刈り機】

学生指導に活用するために、自動操舵トラクタ2台（60ps及び25ps）と、ラジコン草刈り機1台を新たに導入しました。

トラクタは2cmの誤差での作業を、草刈り機は傾斜角45度でも作業を行うことができる最新のものです。

今後は、これらの機械も学生が実習の中で活用していきます。



<操作方法の学習>



<ラジコン草刈り機の操作>

プロジェクト学習は順調に進んでいます

プロジェクト学習計画検討会(1学年生)

農大では、学生一人一人が課題を設定し、課題解決計画を立て、これに基づいて課題解決活動を行うプロジェクト学習を実施しています。

1学年生は専攻コース決定後に、自らが考えた課題を8月5日と10月8日開催した「プロジェクト学習計画検討会」で発表しました。

先輩のプロジェクト課題をさらに発展させた分挽コントロールや、夏秋トマトの大玉化など、初めての発表に緊張しながらも、分かりやすく発表しました。

今後は、職員や学生から出された意見を参考にして課題を再検討したプロジェクト計画に基づき、2学年生の11月ころまで実践し、成果をまとめます。



<発表の様子>

プロジェクト学習中間検討会(2学年生)



<質問を受ける学生>

9月15、16日の2日間、「プロジェクト学習中間検討会」を開催しました。

2学年生27名が、約1年間にわたり取り組んできたプロジェクト学習を取りまとめ発表し、学習成果の検討と共有を行いました。

食用ほおずきの品種差による収量や糖度の違いに注目した課題や、仕立て方法により収量と品質の両立を目指したメロンの2果どり栽培の課題など、様々な内容となりました。

発表後の質問は、グラフ作成の仕方から考察の新たな視点など多岐にわたり、今後、それらを活かして卒業論文の作成にとりかかります。

『オープンキャンパス』『緑の学園』を開催しました

【オープンキャンパス】

農業大学校への入学希望者とその保護者を対象に、本校に対する理解を深めてもらうため7月下旬と8月下旬の6日間、オープンキャンパスを開催しました。「1日体験入学」では、県内外から46名の入学希望者と18名の保護者の参加がありました。

参加者からは、「農大生と一緒に体験し、いろいろと話が聞けて良かった。」
「寮生活に不安があったが、先輩の話を聞いてイメージが持てた。」
「学生が生き生きとしていて、楽しそうな雰囲気が伝わってきた。」など感想が聞かれました。



＜学生代表から自治会活動の説明＞



＜パプリカの整枝作業説明＞



＜校内見学＞

【緑の学園】

コロナ禍の中、例年8月に開催していた『緑の学園』を感染症対策を実施のうえ10月下旬に開催し、県下6つの農業関係高校から、2年生26名の参加がありました。

「若手農業者と語る会」では、農大卒業生の馬場太基さん（トマト）、横山一夫さん（肉用牛）、国際園芸アカデミー卒業生の伊藤正覚さん（ブルーベリー）からこれまでの取り組みについて語っていただいた後、3つの座談会に分かれて活発な意見交換が行われました。

参加した学生からは、「今年度は、校外での活動が限られる中で、実習を体験したり、先輩のお話を聞く貴重な時間を作ってもらえたことに感謝します。」との声が聞かれました。



＜体験実習：トマト整枝作業の説明＞



＜座談会の様子＞



＜体験談を語る横山さん＞



＜体験談を語る馬場さん＞

農大育ちの飛騨牛を販売しました

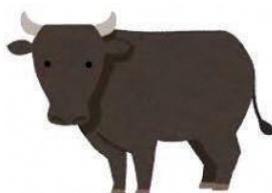
9月14日、可児市にあるJA直売所「とれっただひろば可児店」で農大生が育てた飛騨牛の販売が行われ、学生も店頭で立ち販促活動を行いました。

販売した肉は、8月に出荷した3頭の内の1頭「陽月（はるき）号」で今回はA3の格付けのものです。

店頭で立ったのは肥育のプロジェクトに取り組む学生と応援2人の3名で、コロナ禍の中、手探りの販促活動でしたが、自分たちの育てた牛を精一杯PRしていました。



<とれっただひろば可児店での販売>



農大の新型コロナウイルス感染症対策について

農大の新型コロナウイルス感染症対策の一部を紹介します。

農大学生は、在寮中の朝と夜の2回、検温と健康状態チェックを実施しています。また、校内各所には、手指消毒液を配置するとともに、寮や校内共用部の手すり・ドアノブ等の消毒、講義中及び休憩時間の換気、食堂のテーブルへの飛沫飛散防止シートの設置に加え、学生・職員は接触確認アプリを導入しています。



<食堂の飛沫飛散防止シート>

校長のひとこと ～コロナ禍とコミュニケーション～

マスクといえば白の不織布製やアベノマスクなど味気ないものが大半ですが、素材の高機能性、伝統工芸品や手作り柄などファッションとしても楽しめるようになってきました。一方で学校では、新学期が遅れたことやマスクで顔が見えないことから、学生・職員双方が顔を覚えるのに苦労しました。ハイタッチ禁止、ディスタンスの確保、外出自粛などコミュニケーションを図る場面が制限される中で、相手への思いやりと目をしっかり見て話しをすることがより大切だと思います。

スキー場でゴーグル越しの表情にドキドキしてしまう「ゲレンデマジック」なんて言葉もありましたが、今の学生さんたちは知らないでしょうね。

編集後記

4月の休校に伴い、これまで行ったことのない遠隔授業の実施にはじまり、新入生の皆さんに会えたのは6月に入ってからです。その後も、新型コロナウイルス感染症対策を整備導入しつつ、当初予定していたカリキュラムが大幅に変更になるなか、学生指導の質を落とさぬよう職員一同、取り組んでいます。